

誰もが抱える悩みを。パッと解決！

福田貴一先生の 「福」が来るアドバイス



早稲田アカデミー
千葉ブロック統括責任者
福田 貴一

学習効果を高めるためには何が必要？

「基礎を身につけようね」と励ましの言葉をかけたり、塾に通わせる。これは、保護者の皆さまがやるつもりかと思えばいつでもできることです。しかし、親がどんなに与えても、期待しただけの効果が子どもに現れるかは別問題です。

「始める」効果ができる「ではない!」

成熟優位説と学習優位説

実は、子どもたちの発達には2つの説があり、ひとつを「成熟優位説」といいます。もうひとつを「学習優位説」といいます。

「成熟優位説」は、身体と精神が成熟し、学ぶための準備が整った状態で必要なことを学習させれば、より効果的な学習ができ、能力が高まるという考えです。一方、「学習優位説」は、基礎から順番に指導すれば、子どもの成熟度に関係なく学力は身につくという考えです。これは乳幼児期からの英語教育や幼稚園児から珠算を学ばせるなど、早期教育の裏付けになっている説です。

成熟度とカリキュラムが育てる「レディネス」

「成熟優位説」と「学習優位説」。これまで子育てをされてきた経験から考えて、このふたつのどちらかだけが正しい、その通りでできるというふうか、

子どもに何かを教えようとするとき、やはり心身の成熟に合わせて教えなければならぬこともたくさん



「なかなか成績が伸びない」塾の授業についていけないようだし、宿題が完璧にできない。子どもを塾に通わせ始めたばかりの保護者の方で、このように感じられたことがある方は多いのではないのでしょうか。塾では、塾をスイミングに置き換えてみましょう。習い始めてすぐに、「うちの子はまだ50メートル泳げない」と悩まれるでしょうか。泳げなかった子が水に浮けるようになったことを喜び、少しでも泳げたら「すごいね!」とほめませんか?塾もスイミングと同じです。塾に入ったから問題が解けるのではなく、解けるようになるために塾に入ったのです。できれば塾についてせめて少し気長に見守りたいものです。

とはいえ、塾の場合、受験や進学などの時期が決まっているため、少しでも効率良く、効果的に学習を進めたいのは当然です。そのためには、学ぶための準備。つまり、子どもがその教育を受け入れることができるほどに発達し、能力的にも十分かどうか見極める必要があります。この「学ぶための準備」を教育心理学用語では「レディネス」といいます。

んあります。たとえば、トライレトリニングもそのひとつです。反対に、ある定の時期にできれば教えたいこともあります。学習面ならば、たとえば、小学校一年生から4年生くらいまでの間に計算問題などで頭を回転させる経験や「勉強することが楽しい」という体験を積んでおかないと、高学年になったときに「私には無理」「勉強が嫌い」となりかねません。

また、順番に学ばせることも大切です。中学生で学ぶ二次方程式を、足し算、引き算ができない幼稚園児に教えても解けるはずがありません。足し算と引き算ができるようになり、掛け算、割り算を学ぶ。そのうちに式の処理がスムーズにできるようになり、中学生で因数分解を理解し、ようやく二次方程式にたどり着くのです。また、学ぶ順番だけでなく、二次方程式を理解するには、それなりの精神的な成長も必要でしょう。「このように考える」と、「成熟優位説」と「学習優位説」を上手く組みあわせながら学ばせる。これが最も効果的で効果的な学習になるのではないのでしょうか。

子どもの「やる気」も大切な「レディネス」のひとつ

身体も精神的にも成熟した「レディネス」が整った時期に、適切なカリキュラムに則った学習を行ったのだから成績も上がるはず…。残念ながら、これだけでは成績が必ず上がることはないかもしれません。その理由は、机の前に「勉強しなさい」と座らせ、どんなにすばらしいテキストを使ったとしても、子どもに「やる気」がなければ、勉強が進まないどころか、何も頭に入らないからです。つまり、「レディネス」には、精神的、肉体的なものだけでなく、「やる気」といった心の準備も必要なのです。

たとえば、早稲田アカデミーでは、授業開始は「起

立」「気を付け」「礼」といった挨拶から始めます。これは、挨拶する

ることで「お母さんから頑張る」と思わせるきっかけにするためです。また、教室内の壁は白で統一し、黒板ではなくホワイトボードを使用することで、教室全体を明るくしています。これは、精神的にも物理的にも明るくすることで、子どもたちの前向きな「やる気」を促すためです。さらに、友だちと一緒に成長するという仲間意識、そして、塾の講師と生徒の「縦の信頼関係」。これらも子どもたちの「やる気」を生み出すと考えています。

家庭で学習効果を高めるための「レディネス」の育み方

もちろん、家庭学習でも「これから宿題をやろう、頑張ろう」といった「レディネス」を子どもにも与えることができれば、当然、集中力は高まります。たとえば、保護者の方の「よい、スタート」「今から始めるよ」という声掛けでもいいでしょう。子ども自身も「よし」と言って勉強を始めるのもかまいません。

また、1枚のプリントを仕上げさせるならば、緊張感を持たせてみるのはどうでしょうか。「この時計で秒針が12になったらね」などと声掛けし、黙って時計をジッと見て「はじめ!」と合図をし、その合図で子どもに問題を解き始めさせるのです。そうすると、誰かと競争するわけではないのに、子どもはじつじつと集中することに集中し、しかも短時間で正確にプリントを仕上げるはずです。少なくとも、ご飯を食入るときに「いただきます」と挨拶するのと同じように、家庭学



習も「今から勉強するぞ!」と「やる気」になる声掛けから始める、そんな習慣を身につけていってほしいとお勧めします。

そして、できれば「勉強するぞ!」と思える環境も整えてください。せざるに勉強部屋や勉強机がなくとも大丈夫です。明るく、できれば無駄なものがない、集中できる場所を勉強する場所として決めましょう。反対に、子ども部屋や机があっても、そこでゲームをしたり、プラモデルを作ったり、さらには漫画も読む場所ならば、その部屋はもはや勉強部屋ではありません。勉強だけに専念できる空間で勉強させることが重要です。

精神的、肉体的、そして心の「レディネス」を意識しながら、そのときどきに必要な学習を適切なカリキュラムのもとで学習させる。そのような環境をできるだけ早く子どもに与えたいものです。

お問い合わせお待ちしております
みなさまのお悩みに福田先生が紙面上でお答えします。
下記のアドレスまでお寄せください。
メール: success12@shahyo.com
採用された方には、オリジナルスタンプを差し上げます。